



二十歳の

誓

い

夢への挑戦!

平成22年1月4日(月)、三加和公民館で成人式が開催されました。この日は130人が成人を迎えましたが、当日は116人の新成人者が出席し、友人や恩師との久々の再会に笑顔があふれ、会場は盛り上がりしていました。式典が始まるとにぎやかなムードとは一転して新成人たちは坂梨町長や、小中学生からのメッセージを真剣に聞いていました。新成人の意見発表では、福原俊介君(和仁)と倉本明日香さん(藤田)が代表で発表し、夢に向かって頑張っている強い意志が感じられました。式典後はアトラクションがあり、恩師からビデオレターや中学時代の写真などが放送され、会場は大いににぎわっていました。

大人の一步を踏み出した新成人のみなさんの今後の更なる活躍と飛躍を期待しています!

平成生まれの私たちも今日という日を迎え20歳となり、大人の仲間入りをしました。成人を迎えることとなりましたが、まだ実感が湧かないのは私だけでしょうか。

私のなかでは、20年間の思い出が今でもハッキリ残ります。中学時代には、体育祭で応援団長をし、部活動では駅伝競技で全国大会に出場し、10本の指に入ることができました。中学での部活動を極めたいと駅伝強豪校へ進学、その高校時代には、毎日が陸上の生活だったといっても過言ではありません。毎日が練習漬け、また、親元を離れての3年間は寮生活をしてきましたが、レギュラーになることは出来ませんでした。結果は、ついてきてくれませんでした。そんな高校時代が、私自身を肉体的にも精神的にも成長させてくれました。そして、中・高時代の6年間でスポーツ漬けでやってきた私にも大きな夢ができました。それは、「先生」です。

その夢を叶えるために、私は、現在 大学で教育学部に在籍し、体育教員の資格取得のために真剣に勉強に向き合っています。

いろんな理由でこの夢を抱いた訳ですが、「陸上を教えたい」というのが一番の理由です。今まで指導して下さった先生方、大会が近づくと「頑張れよ!」と声をかけてくれたり、お守りを作ってくれる友人たち、町内駅伝での和水町民の温かいエール、そしてこの豊かな自然と金栗四三先生の存在が、私の夢へのきっかけとなりました。この夢こそが、私を今まで支えてくださった人々への恩返しになると思います。

和水町を離れ、一人暮らしをしたことにより、両親のありがたみ、友人の大切さ、そして、和水町の素晴らしい自然と町民の温かさに気づくことができました。

新成人を迎えることとなりましたが、これからは、人に頼りすぎることなく、私も社会の一員として自覚と責任を持ち、軽率な行動は慎まなければなりません。しかし、まだ20歳。勉強だけではなく、旅行に行ったり、ボランティアに参加したり、遊んだり、学ぶ意欲を忘れず、色々なことを貪欲に経験し、より一層成長していきたいと思えます。

今日までの20年間は私だけのものであり、これから通る道も私だけのものです。「No.1」ではなく「オンリー・ワン」誰のものでもない、誰かと競争しているわけでもない。自分という人間を大切に、人生一度きりの自分の道を一生懸命生きていきたいと思えます。



福原 俊介
Syunsuke Fukuhara





倉本明日香
Asuka Kuramoto

今日という節目の日をここ和水町で無事に迎えられたことをとても嬉しく思います。その嬉しさと共に大人の仲間入りをしたことの重さ、責任感を沸々と感じていきます。

この20年間という時間は、私にとって長いようであつという間に過ぎていきました。この町で過ごして、多くの人と出会い、様々な出来事を経験しました。楽しくてお腹が痛くなるほど笑ったこともあれば、悲しくて目がはれるまで泣いたこともありました。

そんな20年間の中で、私は1つの目標を見つけた。それは、養護教諭になるということ、保健室という場から子どもたちを守り、笑顔でいっぱい学校のすること、ということ。何よりも子どもたちの笑顔が好きだということ、私と同じような悩みを持った子ども、1人で苦しんでいる子ども、辛いことを誰にも相談できずに抱え込んでいる子ども、病をもちながらも精一杯生きている子どもたちを笑顔にしてあげたいと思ったことが養護教諭の道を目指したきっかけです。今、私は大学

で看護の勉強をしながら養護教諭になるための勉強をしています。今年の夏には、玉名の学童の子どもたちとキャンプに行ったり、10月から月に1度、母校である小学校に読み聞かせに行ったりと、できるだけ子どもと多く関わる機会を持っています。様々な子どもたちと接していく中で、みんなをまとめあげていくことは大変だと思つたということが本音です。しかし、それ以上に、悩みを持つ子どもたちの1人でも多くの笑顔がみたいという気持ちが関わる回を重ねるごとに強くなりました。あと1年半後には、教育実習が待っています。子どもと関われることがとても楽しみです。これからの学習の中でもっと学びを深めて、子どもたちの笑顔が引き出せる養護教諭を目指します。しかし、看護と教職の勉強の両立は厳しく、諦めようと何度も迷ったり、こんなによくよした自分か本当に子どもを支えていくことができるのかと悩んだ時期もありました。そんな自分の話を聞き、支えてくれたのは誰よりも母でした。私

の言葉をそのままに受け入れ、時には「頑張れ」と背中を押してくれました。厳しい母ですが、私の一番の友人であり、1番の理解者である太陽のような母です。今まで反抗したこともありましたが、私と妹をここまで育ててくれた母には、すごく感謝しています。ありがとう。

また、私が悩んで泣いていたときに横にいてくれたのは、友人たちでした。私の悩みを自分のことのように考え、自分のことのように一緒に泣いてくれました。友人の言葉が支えになったからこれまで頑張つてこれました。これからも繋がっていられた大切な存在です。互いに怒りあい、互いに成長し合えるよき仲間に出会えたことをすごく嬉しく思います。ありがとう。人生には、まだまだこれから先がありますが、この20年間の中から私が伝えられることは「1人ではここまでできなかった」ということです。母がいたから、家族がいたから、友人がいたからこそ今、私はここに立っていられるのだと思つています。多くの人に支えられ20年間を生きてきた私は、とても幸せです。大人としての一歩を踏み出した今、責任のある行動をとるとともに、様々な方へのありがとうの気持ちを忘れず、これからの人生を笑顔いっぱい歩いて歩んでいこうと思います。

最後になりましたが、私の原点はここ和水町です。これからの将来を私がどこで生きていくかは、まだわかりません。しかし、美しい自然と素晴らしい歴史を持つこの地で、多くの人々に出会い、様々な経験をした20年間は、私にとってかけがえのない財産となっています。人々の笑顔があふれる和水町で過ごせたことを私は誇りに思います！

